

対象者に応じて 関心や対応力向上を 図るための工夫と実際

向日市社会福祉協議会（京都府）

認知症地域支援推進員 石松 友樹

令和元年8月21日





向日市基礎情報

人口	57,527人	65歳以上人口	15,259人
高齢化率	26.5%	第6期介護保険費	5,177円
要介護認定者数	2,237人	要介護認定率	14.9%
日常生活圏域数	1圏域	包括数	委託：3

認知症地域支援推進員数： 1名（うち委託：1名）

《役割》 認知症の人に対し、状態に応じた適切なサービスが提供されるよう、認知症医療機関、介護サービス事業者や認知症サポーターなど、地域において認知症の人を支援する関係者の連携を図る。認知症の人やその家族を支援する事業を実施する。

地域の特徴

向日市は、京都盆地の西南部に位置し、市の北部、西部と東部は京都市に、南部は長岡京市に接し、南北4.3km、東西2.0kmにわたる南北に長い市域で、面積7.72km²の西日本で最も面積の小さな市です。



認知症施策の全体像

認知症であっても安心して生活できる地域を目指して、次の2点を中心とした取り組みを推進していきます。

○認知症に関する正しい知識と理解が市域全体に広まるよう、市民や市内の事業者などに対して、様々な機会を通じて認知症に関する正しい知識の普及啓発に努め、認知症の方を正しく受入れ、見守る環境づくりに取り組みます。

○認知症の可能性のある人を早期に把握し、状態に応じて早期から適切に対応し、適切な医療(早期発見)・介護サービスにつなげていく体制づくりに取り組みます。

以上の取組を進めるため、認知症地域支援推進員を配置し、関係機関との連携を図り、認知症施策を推進します。

取組当初の課題

- ◆ 認知症に関する講座等の参加を募っても参加者は高齢者（自分が認知症にならないために話を聞きたい）や、**いつものメンバー**や領域が多く、**若い世代**の関心が低かった。（考えるきっかけが少なかった）

⇒啓発

- ◆ **老若男女すべての人たちが**認知症に関心を持ち、地域で支え合えるやさしい町を目指して、子ども達の力に着目する。考えるきっかけがあれば協力してくれるはず。

⇒啓発・対応力向上

- ◆ 様々な事業を様々な事業所が行ってはいるが、**つながっておらず、単発イベント**で終わっていた。

⇒ネットワーク構築

- ◆ 様々な関係者や地域住民等と顔の見える関係でなかったため、**個々のケース**に問題（例えば：徘徊時や主治医がいない、受診拒否など）の際の検討や**動きに時間がかかった**。
どこの誰に相談すればよいのか分らなかった。

⇒相談体制構築

具体的な取り組み例

対象	内容	連携機関	分類
① 小・中学生とその保護者	授業参観でのサポーター講座	学校教育課 小・中学校 キャラバンメイト 民生児童委員	◎啓発 ◎対応力向上
② A団地住民	声かけ訓練	向日台連合自治会・地区社協 中学校 民生児童委員 オレンジロードつなげ隊 キャラバンメイト 小規模多機能 特養 介護者の会 保健所 警察署 社協	◎ネットワーク構築 ◎啓発 ◎対応力向上
③ 介護者	家族交流会	医師会 認知症サポート医 認知症カフェ 包括 CM 連絡会 保健所 喫茶店 介護者の会	◎相談体制構築 ◎啓発 ◎対応力向上
④ 関心のない住民	プロ野球選手と認知症を考えよう	著名人 イベント業者 キャラバンメイト 地域の野球チーム 小・中学校	◎啓発
⑤ コンビニ・ケアマネ・ヘルパー	企業と専門職が連携してできること	乳酸菌飲料会社 コンビニ ケアマネジャー ヘルパー 包括 社協	◎ネットワーク構築 ◎対応力向上 ◎相談体制構築
⑥ 介護事業所職員	対応力向上研修	ヘルパー連絡会 CM連絡会 各事業所 キャラバンメイト	◎対応力向上
⑦ サロンの世話人	「メンバーが認知症になったら...」	サロンの代表者 社協	◎対応力向上 ◎啓発
⑧ 祭りに参加する住民	〇×クイズ・アンケート	キャラバンメイト 保健所 ボランティア 包括 社協	◎啓発
⑨ 警察・消防	連携できる機会の設定	向日町警察署 向日消防署	◎ネットワーク構築 ◎対応力向上 ◎相談体制構築
⑩ 市民	図書館特設コーナー	図書館 教育委員会 認知症疾患医療センター	◎啓発

① 小・中学生とその保護者に
「近所のおじいちゃんが困っているのを
発見したら・・・」

感想文(一例)

【子ども達】

困っている人を見つけたら知らんぷりしな
いで声をかけたり、お母さんに相談します。

【保護者】

困っている人のために子ども達が一生懸
命考えているので、親としても知らんぷり
するわけにはいきません。



ポイント



授業参観

ポイント



親子一緒に考える

② 町内会・自治会・集合マンションに
「ご近所の人が迷っているところを発見
したら・・・」

ポイント まずは町内会単位の
小地域から

ポイント 町内会のキーパー
ソンは誰か

ポイント 近隣の地域密着型
事業所と連携



③ 喫茶店での家族交流会

地域の喫茶店を貸し切り、家族交流会を実施。

アドバイザーには認知症サポート医や介護者の会に依頼。



ポイント



介護者が自発的・継続的に
集まれそうな場を
参加しやすい雰囲気作り
認知症サポート医も一緒に
介護者の会も一緒に

ポイント



ポイント



ポイント



④ 認知症にあまり関心がない人に 「プロ野球選手と認知症について考 えませんか」



ポイント



著名人をゲストに
考えるきっかけ

ポイント



地域の関心ごとに
目を向けて

⑤ 企業と専門職の 連携会議

訪問サービスを行うコンビニや企業とケアマネジャー、ヘルパーなどの福祉専門職が「よりきめ細かい見守り」について顔を合わせて検討する場を設定。



- ポイント 利用者にとっては企業も専門職も関係なし
- ポイント コンビニや企業とも顔の見える関係に
- ポイント コンビニや企業も是非ケアプランに

⑥ 介護事業所に対応力向上研修

自分自身の支援方法をかえりみる機会に



- ポイント 自分が支援を受ける側だったら
- ポイント 認知症になっても今まで通り...

⑦ サロンの世話人に 「もしサロンのメンバーが認知症 になったら・・・」

認知症になった

→サロン無理？介護保
険サービスにすべて移
行？



ポイント 自分自身のこととして
捉えてもらう

ポイント 今後は生活支援コーディネー
ターと一緒に

⑧ 地域行事等に参加する住民に 啓発アンケート 認知症〇×クイズ

住民が多く集うイベントと連携し、幅
広い世代の住民対象に認知症に関
するアンケートや〇×クイズを実施し
合せて認知症啓発タオルを配布。

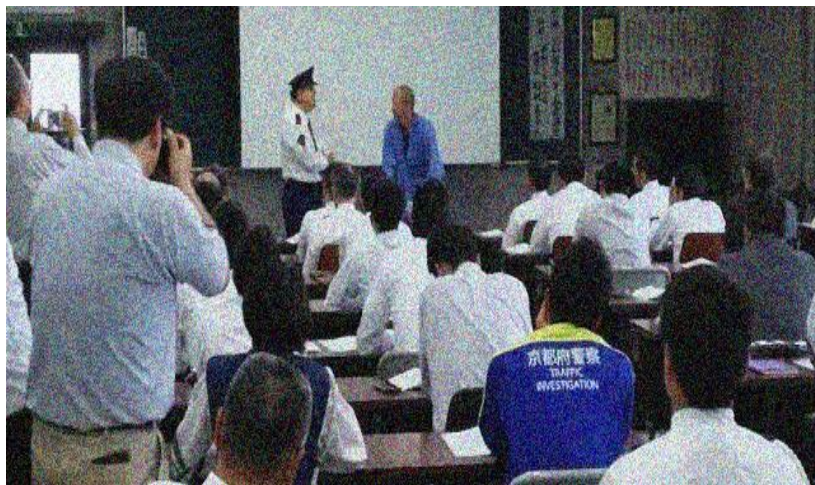


ポイント 人が多く集まる
地域の行事

ポイント 楽しく参加できる工夫

⑨ 警察・消防が 連携できる機会の設定

警察署のキャラバンメイトが消防署
の認知症サポーター講師を務める。



- ①推進員が警察署での講師↓
- ②消防署での講座の企画↓
- ③警察に「消防署での講座をするので一緒に行きましょう。」↓
- ④消防署にて警察官と推進員が一緒に講座↓

警察と消防がつながる

ポイント ① つながる必要がある
機関はどこなのか
ポイント ② 推進員はつなぎ役

⑩ 図書館に認知症 特設コーナーの設置

・本を通じて新たな気づき
を得るきっかけに

・もう一工夫！

特設コーナー設置に合わせて、認
知症疾患医療センター医師が講師
で講座も開催。

合わせて行うよう調整したことで図
書館研修室も利用可能に。

認知症疾患医療
センター
関係機関と何か
したかった

図書館
新しい特設コー
ナーができた

市民
わかりやすい
理解が深まる

ポイント ① 取り組みはより多くの関係
機関と一緒に
ポイント ② WIN WINの関係を意識して

工夫したこと

- 市民目線で、楽しく参加しやすい内容、時間、場所を設定する
- 対象者の設定を明確にする
- 対象者が集まる場所に出向く
- 福祉だけの視点にならないように気を付ける
- 地域の行事にはできるだけ短時間でも顔を出す
- お誘いがあれば断らない
- 多少無理をしてでもお願い事は引き受ける
- 自分にない人脈は上司や仲間の協力を得る
- お土産も忘れずに

お土産の啓発タオル



取組を通して課題と 感じていること・気が付いたこと

①イベントで終わらせないこと

②「直接（一人で）」より『推進（みんなで）』

③地域オリジナルの『味付け』をすること

④取組が個別支援につながること

①イベントで終わらせないことNO.1

例えば・・・高校生対象 認知症サポーター養成講座の調整

高校生に認知症サポーター講座をしよう

打合せ『当日は……』

200人養成!(^^)!

高校生に認知症サポーター講座をしよう

打合せ『当日は……』

200人養成!(^^)!

打合せ『講座後、何か一緒にできそうな……』

高齢者に手紙を書こう!

次の事業や関わる人達、アイデアを頭に入れて打ち合わせに臨む!



高校生から
民生委員に

①イベントで終わらせないこと^{N0.2}

中学校でのサポーター講座から声かけ訓練の流れ

★5月26日 学校との打ち合わせ



学校の先生としっかり事前打ち合わせを行うことが重要！
無理は言いすぎないように意識…

★7月5日 認知症サポーター養成講座



★7月14日 カードワークの勉強



★9月22日 認知症サポーターとしてできることを検討



地域に出かけて認知症の啓発
活動をしよう!!



推進員の事業（声かけ訓練）
に位置付ける



★10月6日 地域に出かけて調査活動 1



調査活動 1
公民館・コミセン2か所
地区社会福祉協議会・民生児童委員のみなさんと



★10月20日 地域に出かけて調査活動 2



調査活動 2
グループホーム・デイサービスの利用者や職員にインタビュー



★10月25日 地域の方を招いて調査活動 3



調査活動 3
コンビニ・不動産会社・ボランティアから活動報告と意見交換



★10月27日 調査活動の振り返り・啓発チラシの検討



★11月1日 啓発活動当日に向けた準備



商店や市民にしっかり説明できるように！

★11月2日 チラシ完成



中学生の想いを市民へ
調査活動の内容も組み込んで

★11月8日 啓発活動当日

調査活動でお世話になったみなさんと一緒に いざ地域へ！



認知症 声かけ訓練実施中！

私たち勝山中学校1年生も一緒に取り組んでいます！
ご協力お願いいたします！

認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを目指して、地域の方が認知症を正しく理解し、ご本人の気持ちに配慮した声かけや見守りができるよう、認知症高齢者への声かけ体験を実施しています。



裏面もみてください。
一生懸命考えました！

声のかけ方（一例）

- ① ゆっくり近づいて、おだやかにやさしい口調で話す。
- ② 「こんにちは」「寒いですね」など、ごく普通のあいさつから始める。
- ③ 「何かお困りですか？」「大丈夫ですか？」など、わかりやすい言葉で声をかける。
- ④ 相手のペースに合わせて、笑顔で接する。
- ⑤ 急に後ろから声をかけたり、大声で怒鳴るような声かけをすると混乱される場合がある。
- ⑥ 上から見下すような態度や、多量で取り囲んだり、急に触れついたり、身体に触れたりすると、警戒心
- ⑦ ゆっくり歩きなど声をかけた
- ⑧ 声をかけても上近所の方に連絡

みんなが住みよい町とは!?

本訓練の実施にあたり

勝山中学校1年生は考えました！

調査では、地域の様々な方たちが高齢者を支える活動をされていることが理解できました！

【主催】向日市社会福祉協議会
【協賛】向日市社会福祉協議会グループ、その他各

地区社協や民生委員が

一人暮らしの方にお弁当配達

不動産会社が無料のカフェスペース

清掃活動

コンビニが宅配サービス

手渡し

地域サポーターが認知手

ボランティア

介護施設で専門的な支援

せいの工

ちづき大

などなど

私たち中学生ができること！！

- 近所の人たちで支え合えるように日頃から笑顔で挨拶をする。
- 困っている方を見かけたら、やさしく声をかける勇気を持つ。
- 相手の気持ちが理解できるように視線を合わせてコミュニケーションをとる。
- 電車やバスで席をゆずったり、荷物を持ったり、私たちが手伝う。
- ボランティアなどの活動に参加する。
- 町のルールを守る。
- ちょっとした気遣いができるようになる。
- 地域に認知症の理解を深めるため、声かけ訓練に参加する。



大人になっても ずっと
忘れずにいたいと思います！！

★11月10日 啓発活動の振り返り



中学生A君「実際に声をかけたことがある人は訓練でも臨機応変な対応ができており、未経験の人との差があった。だからこのような活動は大切だと感じた。」

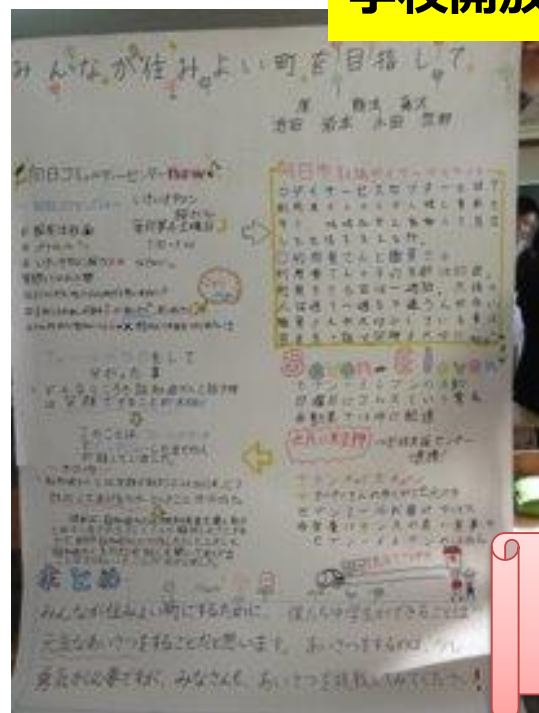
★11月15日 振り返り内容をポスターにまとめる



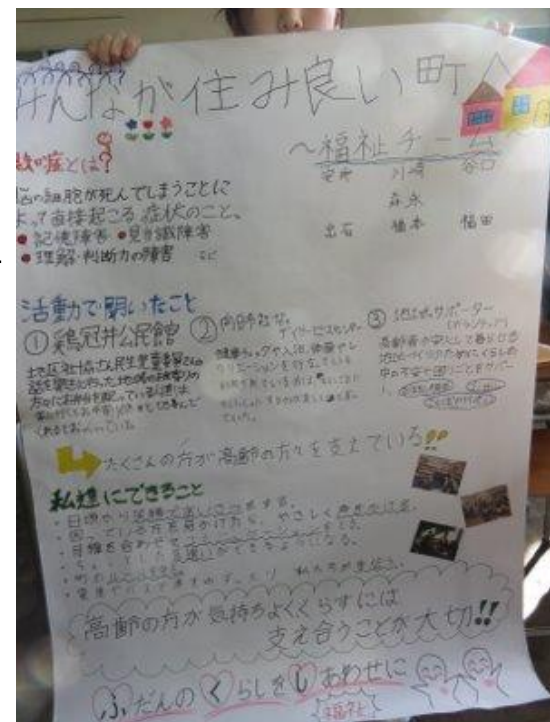
みんなが住みよい町とは！

★12月6日 ポスター発表

学校開放にて地域の皆さんへ



また来年もしましょう(^^)/



②「直接(一人で)」より『推進(みんなで)』

例えば・・・認知症声かけ訓練の実施に向けた調整

- ・ 町内会、自治会との調整と打合せは誰がする？
- ・ 学校には？
- ・ ボランティアには？
- ・ 介護事業所には？
- ・ 警察には？
- ・ 民生児童委員には？
- ・ 当日の進行は誰がする？
- ・ 場所の調整は？
- ・ 道路使用許可の申請は？
- ・ 認知症役の調整は？
- ・ 案内文はどこに誰が送る？
- ・ チラシの作成は？
- ・ 行事保険は？
- ・ 振り返りは？
- ・ 必要備品は？
- ・ 企画書は？
- ・ その他・・・

一人でしない

★一人ですと

- アイデアが乏しい
- 従事者の意識が高まらない
- 規模が小さくなる
- 担当者が代わればわからない
- イベントで終わってしまい継続的な取り組みになりにくい
- 一人の力や時間には限界がある

★みんなで協力すると

- たくさんの新しいアイデアや視点が生まれる
- 従事者の意識も高まり継続的なネットワークにつながる
- 規模を大きくすることが可能になる
- 担当者が代わっても引継ぎがスムーズ
- PDCAサイクルで事業化できる
- 推進員自身を含めた専門職スキルの底上げになる

最初はみんなで協力するほうが大変かもしれない・・・

でも、「それでは市民のためにはならない。自己満足で終わる可能性が高い。」と、最近ようやく気が付きました。

③地域オリジナルの「味付け」をする

矢巾町わんわんパトロール隊から学んだこと

矢巾町の「料理」をそのままマネしても
向日市民の舌には合わない可能性がある



矢巾町の料理を参考に
地域オリジナルの「味付け」を考える
※できる限り地域の素材を使う



それぞれの地域が望む「料理」に近づく

④取組が個別支援につながること

一例をご紹介します

- けがをして困っている高齢者を中学生が発見。
↓
- 中学生が高齢者に声をかけ、薬局に協力依頼。
↓
- 薬局の店員が現場にかけつけ、処置。自宅まで送る。

この地域は声かけ訓練を行った地域でした！（薬局も中学生も参加していました）

こんな場面をイメージしてこれからも取り組みたいと思います。

個別相談の推進員の立ち位置(例)

～包括と相談のすみ分けをするために～

1. 相談項目を設ける

- ・地域での見守り支援に関すること
- ・カフェに関すること
- ・家族支援に関すること
- ・医療受診に関すること

2. 相談経路を専門職からとする

- ・包括やケアマネ等から相談を受け付ける

**※ 推進員の個別相談に関する業務の明確化を図るために
上記のように案を作りました。**

『地域支援推進』を重点的に取り組むことができるように。

推進員はインフォーマル機関に認知症の理解と協力依頼

A商店
(ほぼ毎日商品券購入:1万円/回)

うどん屋⇒10日に1回位商品券を渡す。

郵便局
(毎日お金を降ろしに行く)

銀行
(窓口以降ろしに行く)

A新聞(朝刊・夕刊)⇒本人が希望している新聞。
料金引落とし

B新聞(朝刊・夕刊)
断りたい！！

C新聞(朝刊・夕刊)
断りたい！！

聞き取り・お願い

認知症地域支援推進員

連携

ひとり

地域包括

毎日商品券を誰かに配ってお金がなくなる事例

町内会

成年後見制度

民生委員

その他

CM

(参考)よろしければ見てください

(認知症地域支援推進員の活動の推進に関する調査研究事業 報告書 活動事例集 引用)

事例のテーマ:本人のやりたいこと 地元で叶えられるように ～「本人の声」だからこそ 人は動く と実感～

若年性認知症本人から『楽しいことがしたい。今はソフトボールがしたい。』との声を聞き、希望を叶えられるように調整に入る。

本人の状態とペースに合わせてソフトボールを行えそうなところを探すも地元には見当たらなかったため、本人を中心とした新たな活動の場を地元で作ろうと、推進員が今まで事業等を通じて関わってきた人達を思い返し、協力していただけた人々と機関に協力打診を行う。

結果、地元中学校の女子ソフトボール部の協力が得られ、交流試合を通じて本人の希望が地元で叶った。なお、この中学校は認知症サポーター養成講座や声掛け訓練を毎年行っており、全生徒が認知症サポーターである。

平成30年11月からソフトボールの取り組みを開始し、その後も継続的に取り組んでいる。回を重ねるごとに「一緒に楽しみたい。」と地域の方(ソフトボール部員の家族、ヘルパー事業所の家族、地元少年野球チームなど)の参加が広がってきている。

取り組む中で本人から「絵が描きたい」と新しい希望がでてきたため、個展を開く腕前である地元の元介護者Aさんに協力依頼。Aさんは、ソフトボールに参加した少年野球チームの元監督だったことが判明したため、今後は絵だけでなくソフトボールにも参加されることとなった。

現在本人は、ソフトボールに加えて、Aさんと地元の市民体育館のロビーを拠点に絵を描いて楽しんでいる。また、絵を描いている市民体育館のトレーニングジムにも通うようになり、ホームランを打てる身体作りに日々励んでいる。

このように、本人の一言がきっかけに、地元のつながりが本人を中心に広がってきており、それは結果的に個別の支援体制の充実につながっている。

取り組みの効果

参加者同士
のつながり

幅広い世代へ
認知症の
正しい理解

認知症サポーター
の動きが具体化

専門職が
地域資源を意識し
た支援の形を創造

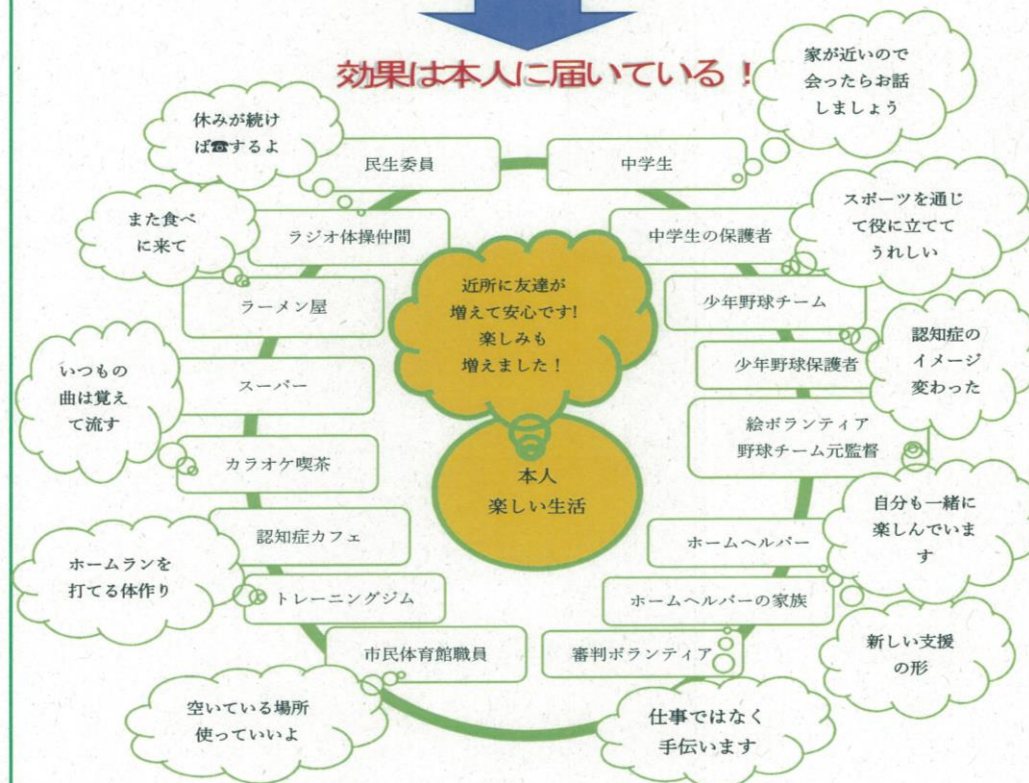
個別支援ネット
ワークの充実

福祉教育の充実

住民の
対応力向上

ボランティア
イメージ・意識の
変化

効果は本人に届いている！



本人の声から始まった ひとつの取り組みは
個別支援ネットワークへ発展し本人の充実した暮らしにつながっている
(ほぼ地元のインフォーマルな地域資源)



成果と今後について

- ・住民や関係者の意識の変化から、個別ケースにおいて、協力していただける機関や人が増えてきた。(啓発・支援体制構築・対応力向上)
- ・顔の見える関係の人や機関の領域の幅とつながりが広がってきた。(ネットワーク構築)

今後も、「だれのための取組か」を忘れず「認知症本人と一緒に」取り組んでいきたいと思います。

最後に

◎推進員の活動は見えにくいものが多いため、活動内容（特に**プロセス**の部分）をどのように**見える化**（**記録**）していくかが大切だと感じています。

そうすることで推進員の活動（役割）が見えてくると思います。

◎推進員ひとりで全てできません。

自分ができる範囲のことに**優先順位を付けて**、少しずつ継続して取り組んでいけばいいと思います。

◎協力してくれる仲間は探せば必ずいるはず。

市民のために！！
推進員自身のためにも！





ご清聴ありがとうございました。